

## 広島港における新規中国航路の就航について

令和2年11月30日  
港湾振興課

## 1 要旨

県では、広島港における新規航路の誘致を推進してきたところ、10月24日（土）より、Taicang Container Lines Co Ltd 太倉港集装箱海運有限公司（TCLC；中国）の運航による、新たな中国航路が広島港に就航することとなった。本航路は、広島港と南京港（中国）及び太倉港（中国）を結ぶ初めての直行航路となる。このことにより、広島港における中国航路は週6便から7便へと増便となる。

## 2 理由

- TCLCは、自動車関連企業が集積する江蘇州（中国）に近接する南京港及び太倉港との直行航路を運航する日本では数少ない船社の1つ。日本では主要港（京浜港・阪神港・名古屋港・門司港・博多港）において航路サービスを展開している。
- TCLCでは、既存航路のスケジュールに余裕があることから、昨年からの新たな寄港地の選定を進めていたところであり、今回の航路改編において、自社の強みを生かした競争力の高いサービスを効果的に展開する観点から、自動車関連貨物を取り扱う日本有数の港である広島港への寄港を決定したものの。

## 3 新規航路の概要

運航会社	Taicang Container Lines Co Ltd 太倉港集装箱海運有限公司〔本社：中国 江蘇省蘇州市〕
寄港地 (ループ)	広島(土)－南京(火・水)－太倉(水・木)－名古屋(土・日)－東京(日・月)－横浜(月)－太倉(金・土)－横浜(火・水)－東京(水)－名古屋(木)－南京(月・火)－太倉(火・水)－大阪(金)－神戸(金)－広島(土) ※当該ループを4隻で運航 
第一船入港予定日	令和2年10月24日（土）
主な取扱貨物	自動車関連部品

## 4 運航予定船舶の概要

船名	船籍	最大積載	総トン数	船長	建造年
JOSCO XINGFU	中国	1,049TEU	9,590トン	142.70m	2006年
HARRIER	バハマ	1,102TEU	9,971トン	148.00m	2008年
LANTAU BAY	アンティグア・バーブーダ	1,049TEU	9,610トン	142.70m	2007年
CHATTANOOGA	シンガポール	1,036TEU	9,743トン	143.17m	2012年

## 5 今後の対応

当該航路の就航を広島港の更なる利用促進につなげられるよう、港湾運営会社である株式会社ひろしま港湾管理センターや船舶代理店等と連携し、自動車関連企業をはじめとした荷主企業に対して、当該航路サービスについて積極的にPRを行う。